

2 小中学校における防煙教育 —アンケート調査の考察—

○東 直子、大内 慎也、中谷 裕美、水野 美枝子、安元 兆（赤穂健康福祉事務所）

I. はじめに

兵庫県では、健康増進法の施行（平成 15 年 5 月）を契機に「兵庫県受動喫煙防止対策指針」を策定（平成 16 年 3 月）し、たばこによる健康被害を防止するため、たばこ対策に取り組んでいる。

健康福祉事務所においては、未成年の防煙対策の推進を図るため、小中学校での防煙教育を実施しているが、今回 2 年間の防煙教育やアンケート調査から把握した地域の実態や今後の展望について考察したのでここに報告する。

II. 研究方法

1. 実施時期：平成 21 年 4 月～平成 23 年 3 月
2. 対象：防煙教育実施の協力が得られた小中学校の児童、生徒
3. 方法
 - 1) 管内（2 市 1 町）教育委員会へ事業説明と協力依頼
 - 2) 協力の得られた小中学校で防煙教育を実施
 - (1) パワーポイントを使用した講話とロールプレイを取り入れた参加型の防煙教育
 - (2) 上記防煙教育の実施前後に無記名式アンケート調査を実施
 - 3) アンケート調査結果を各小中学校、教育委員会へ還元
4. 調査項目：性別、喫煙経験、喫煙時期、喫煙動機、入手方法、喫煙に対する意識等

III. 結果

平成 21 年度に A 市において 4 小学校と 3 中学校、平成 22 年度に B 市において 5 小学校の協力が得られた。アンケート調査を ① A 市中学校、② A 市小学校、③ B 市小学校のグループに分け比較した。喫煙経験は、4.8%～6.8%と中学 1 年の全国平均（男 13.3%、女 10.4%）を下回った。喫煙時期は、中学生は中 1 と小 6 で 39.1%を占め、小学生は A 市小学生では就学前 21.7%が多かったのに対し、B 市小学生では小 4～6 の高学年で 53.9%を占める結果となった。喫煙動機は、3 グループとも「なんとなく」が最多で、次いで「家族の勧め」となった。入手方法は、「家にあるたばこ」「家族にもらう」が半数近くを占めた。

「たばこを勧められたらどうするか?」「20 才になった時たばこを吸っていると思うか?」等、喫煙に対する意識を防煙教育の前後で比較したところ、3 グループとも「断る」や「絶対吸っていない」と回答する割合が増加した。

また、アンケート調査結果の還元が、学校側の防煙教育への意識付けや児童・生徒の実態把握の機会につながり、防煙教育を継続したいという声が聞かれた。

IV. 結論

未成年の防煙対策を進めるうえで、単発の機会にとどまらず継続した防煙教育が重要である。そのためには、誰でも利用できる共通媒体の作成や学校におけるキーパーソンとの連携を図っていくことが必要と考える。また親や教師など子供の身近にいる大人がたばこを吸わない環境づくりのために地域全体の受動喫煙防止対策の啓発にも取り組んでいきたい。